「青空文庫」の作家、高野敦志の世界

舟橋聖一顕彰青年文学賞を受賞した高野敦志が、書きためた作品を無料で公開していきます。
なお、右サイドバーの下部に、高野敦志の電子書籍の表紙がランダム表示されています。
表紙をクリックすると、各電子書籍のダウンロードページへ移動します。

<< 箱根にあった駒ヶ岳（7） | TOP | 弓削三男先生のこと（2） >>

2020年04月07日

弓削三男先生のこと（1）

　弓削三男先生は、九州大学文学部仏文科を卒業し、フランスのストラスブール大学とパリ大学に留学された。九州大学の教授になった後、早稲田大学の平岡篤頼教授の勧めで、同大学第一文学部で教鞭を執られるようになった。
　弓削先生がフランス留学から帰国した後、夫人となるコレットさんが来日した。はるばるフランスから追ってきた恋人の姿を見た時ほど、喜びに満たされたことはなかったそうだ。コレット夫人の姿が、ドイツから森鴎外を追ってきたエリスのように見えたのだろう。
　先生は学部では、プルーストを教えておられた。僕は文芸専修の出身だったので、先生に教えていただいたのは、大学院の修士課程に入ってからだった。大学院でも研究指導と平行して、ジャン＝ピエール・リシャールのプルースト論などを読んでいた。コレット夫人には、学部時代にフランス語会話を教えていただいた。
　年末には都内の先生のマンションに、研究室の学生たちがうかがった。弓削先生のお話から、コレット夫人のことを、とても大切に思っておられることが感じられた。コレット夫人は一人娘で、フランスにご両親を残してきたこと、結ばれたことが運命的だったとしても、一人娘を日本に連れてきてしまったことを、気にしておられた。
　ご夫妻には子供がおられなかった。部屋では猫が二匹飼われていた。また、コレット夫人が集めた多くの人形が飾ってあった。弓削先生の説明によれば、それは子供を作らなかったことで満たされなかった母性本能が、代償として人形に向けられたものだということだった。
　早稲田大学には、軽井沢にセミナーハウスがあり、夏休みには合宿して、学生たちが研究発表をしていた。その途中で蓼科に近い八島湿原を、数台の車に分乗してドライブしたことがあった。車を止めると、道ばたに花が咲いていた。コレット夫人は思わず手に取り、胸元に抱きしめるようにして、日本語で「かわいい」と言った。いくつになっても、乙女のような心を持っている方だった。
　帰り道の中央高速で、弓削先生の車と学生の車は、スピード競争をしていた。すでに日が暮れていたというのに。ちょっと危ない気もしたが、先生も少年の心を持っておられたのだろう。（つづく）

「青空文庫」の作家、高野敦志の世界
https://podcasts.apple.com/jp/podcast/qing-kong-wen-ku-no-zuo-jia/id504177440?l=en

Twitter
https://twitter.com/lebleudeciel38

<< **2026年01月** >>

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

検索

検索

ファン

- メッセージを送る
- このブログの読者になる
- 更新情報をチェックする
- ブックマークする
- 友達に教える



ラベルリスト

MIDI,XG,GS,soundfont,VST,Android チベット,蔵王墓,ヤルツァンポ河,チベット仏教,ヤムドゥク湖,ラサ,ポタラ宮,西安 ボルヘス,バベルの図書館,世界文学全集,国書刊行会,評論 ワード,word,電子書籍,ePub,Sigil,css,スタイルシート 芥川龍之介,河童,蜘蛛の糸,藪の中

最近の記事

(01/25)朝ドラの「ばけばけ」裏話

(01/24)「トート・タロット」の「16 塔［または戦争］」
(01/23)パキスタン人について
(01/22)真栄田岬の幻影（８）
(01/21)podcastを更新する際の注意点

ラベル：弓削三男,フランス文学,早稲田大学,九州大学,弓削コレット,軽井沢,セミナーハウス

【関連する記事】
朝ドラの「ばけばけ」裏話
翻訳と生成ＡＩ
島崎藤村の『破戒』について
ヴァーチャル怪談「耳なし芳一」
加賀乙彦の「森鴎外　医学と文学」

posted by 高野敦志 at 02:22| Comment(2) | 文学 |

この記事へのコメント

（メールが届かない感じなので、こちらに書きます）

この弓削先生の話は、さっそく、ツイートしました。
https://twitter.com/rigide_t

読んでみて、記憶がおぼろになっていた部分がよみがえってきました。
弓削先生の授業で読んだのは、ジャン＝ピエール・リシャールのプルースト論です。

コロナは先行きが見えない感じですね。どうなることか。

Posted by 吉澤 at 2020年04月07日 14:55

確かに、ジャン＝ピエール・リシャールのプルースト論でしたね。記憶が曖昧でした。本文に書き加えました。続きをアップロードするので、もし感じたことがあったら、また書き込んで下さい。ちなみに、仏文科の窪田般彌先生、平岡篤頼先生、市川慎一先生についても書きましたので、よろしかったら眼を通してください。

Posted by 高野敦志 at 2020年04月07日 18:20

コメントを書く

お名前:

メールアドレス:

ホームページアドレス:

コメント:

確認する　書き込む

最近のコメント

連体止め・体言止め・言いさし（２） by おじさん構文 (09/19)
森鴎外の『舞姫』 by いけやん (04/26)
森鴎外の『舞姫』 by いけやん (04/26)
「ウェイン・ショーター 無重力の世界」（３） by aki (11/19)
西早稲田の川香酒坊が間もなく閉店 by 川香酒房の元常連 (08/19)

カテゴリ

日記(8)
文学(947)
日本語(63)
語学(15)
コンピュータ(331)
旅行(1272)
ジャズ(256)
社会(766)
宗教(585)
ショートショート(170)
連載(73)
ePub版ライブラリ(19)
PDF版ライブラリ(21)
podcast(8)

過去ログ

2026年01月(27)
2025年12月(34)
2025年11月(32)
2025年10月(31)
2025年09月(14)
2025年08月(14)
2025年07月(15)
2025年06月(13)
2025年05月(9)
2025年04月(14)
2025年03月(15)
2025年02月(14)
2025年01月(12)
2024年12月(11)
2024年11月(11)
2024年10月(16)
2024年09月(13)
2024年08月(16)
2024年07月(18)
2024年06月(15)

商品紹介

RDF Site Summary
RSS 2.0

